

連載 亀ちゃんにも言わせてよ！

もう黙ってられないよ

今回はこの通信に載せるテーマとしては少々はずれているかもしれませんが、どうしても言わずにはいられないので自衛隊のイラク派遣について亀ちゃんにも言わせてください。

なぜイラクへ行くのか

まずはじめに私がどうしても納得できないのは、なぜ自衛隊がイラクに行くのかということです。政府は「国際貢献」と盛んに言っていますが、国際貢献＝自衛隊派遣ということはどこから出てくる解釈なのでしょう。経済的貢献だけでなく人的貢献もするというのであれば、自衛隊でなくても人的貢献は可能です。自衛隊でなければできない人的貢献とは何なのかぜんぜんわかりません。日本はイラクの戦後復興に貢献すると政府は言いますが、「戦後」であれば治安維持に警察は必要であっても軍隊(軍事力)は必要ないはず。そして、「国際」貢献と政府は言いますが、実質的にはここでの国際とはアメリカのことであり、アメリカ貢献であることはアメリカ(およびの英国など支援国)のイラク侵攻の経緯をみれば明らかです。仏・独・露などはいまなお軍を派兵していません。ただ、政治的思惑なども働いているようですが、それらの国々では今回のイラク侵攻に正当性がないと考える人が多いからではないでしょうか。侵攻のきっかけとなった大量殺戮兵器の存在すらいまだに判明していません。

それと加えて言えば、サダム・フセインにしるビン・ラディンにしる、つい最近まで対イラン政策などでアメリカ(CIA)がさんざん利用しさまざまな援助をしてきたにもかかわらず、じゃまになってきたからといって「敵」とするのはいかがでしょうか。しかも、放っておくと飼い主である自分の手が咬まれるからといって(事実、咬まれたが 9.11 ジェット旅客機テロ)とってつけた理由を掲げて国際社会の協力(お金と軍事力)を利用して自国の負担をできるだけ減らして後始末しようなんて考えるあたりは、まさに「国益」を考えているんだなぁと分かり易すぎで「言うことなし」といった感じです。

しかし日本はどうでしょうか。総理大臣も官房長官も外務大臣もこぞって「わが国の国益を考えると」と言っていますが、そこで言う国益とは一体どういうものなのかまったくわかりません。自国をテロの標的にされてもアメリカについて行かないと何か大きな不利益があるのでしょうか。自衛隊を名実ともに日本軍とするためのステップと考えてそれをもって「国益」と言っているのでしょうか。小泉総理ははっきりしないことが多いと思うのは私だけ？

子どもたちは見ている

この問題についての細かいことは別の機会に譲りますが、みんなで考えてほしいことは、自衛隊を海外に派遣するならば、そのことを子どもたちが見ているということです。私たちは普段、子どもたちに「非暴力的な方法で問題解決しようよ」とよびかけたり指導したりしているのではないのでしょうか。なのに大人は自分の考えが通らなければ暴力で解決しようとしている。そして、「たとえ相手が先に手を出しても、こちらが手を出していいというわけではないよ」と子どもたちによびかけ続けていても、大人は当たり前のようにやられたらやり返している。こんな社会の中で育った子どもたちがどう育つのか心配です。子どもたちは私たち大人を見て育っています。いいことも悪いこともまねするし、影響されます。そしていずれは、彼らも大人になりこの社会を担っていき、さらに次世代を育てていきます。暴力的な問題解決方法を良しとする社会になったら、目には目をが当たり前の社会になったら、それこそ

「国益」(世界益も)を損ねるということではないでしょうか。私たちの求める国益(社会益)とは、暴力のないそしてお互いを認め合い尊重し合う社会であり、それをつくり維持していくことだと思います。みなさんはどう思いますか。

ここでイラク問題を取り上げた理由は、この問題が深い根っこのところで非行問題とも繋がっていると考えているからです。ちょっと強引でしょうか？

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者(犯罪学・刑事法)]